

# 五色池通信

287 2009年11月 5日 発行

## 中土手に自然を戻す市民の会

東京都江戸川区東小松川3-35-13-204

〒132-0033 Tel 3654-7240 Fax 03-3654-7256

ホームページ: <http://www.cleanaid.jp/nakadote/>

### 中土手で秋の七草を探す

10月12日は、秋の七草を探そうということで、ARAと読売新聞のエコ何とか欄にも掲載されましたが、それを見て参加した人は残念ながらもありませんでした。

秋の七草では、クズとオバナ(ススキ)が見つかりましたが、そのほかは「マイ、秋の七草」を探して、講師の中嶋さんからその名前や特徴などを聞いていました。ススキとオギの見分け方や、オナモミ、オオオナモミ、イガオナモミの違いなど、現物を見ながらでなければ分からないことも、ここではよく分かります。集めたススキやヨシの穂でミミズクを作って遊びました。

以前下平井水辺の楽校に来たことのある親子が、はるばる千代田区から参加、ムシの大好きな小学3年生の男児で、レギュラーの子ども達と元気いっぱい楽しんで帰りました。



### ザリガニとウシガエルはどこへ?

10月12日の中土手は、異変がありました。あれほどたくさんいたザリガニが1匹も見つからないのです。同時にウシガエルのオタマジャクシも全く見当たりません。投網を打ってみても、クチボソが若干入るだけで、ザリガニもオタマジャクシも全く入らないのです。

10月8日の台風の通過と大雨が関係しているのではないかと人もいますが真偽の程は分かりません。

五色池の川側に住んでいるAさんに聞いたら、台風のおかげで、池の水があふれるほどだったということで、それも関係し

ているかもしれませんが、ザリガニやオタマジャクシが流されていなくなるなどということは考えられません。

その後、池に親子で釣りに来ていた人に聞いたら、やはりザリガニには1匹も釣れず、コイの稚魚が一匹釣れたこと、ザリガニがいつかもう一斉にいなくなったことがあるというお話でした。

ザリガニがいなくなることは非常に嬉しいことですが、その後の生態系がどうなるのが注意深く見守って生きたいと思っています。

### アカテガニ

最近、アカテガニ(写真左)をたくさん見かけるようになりました。ベンケイガニ(右)との違いは、手だけ赤いことと甲羅が少しまるいことです。



### この後の行事予定

11月8日(日)10:00 下平井水辺の楽校

11月10日(火)9:30東なぎさクリーン作戦

11月15日(日)10:00中土手定例行事

こうとうピオトップネットワークさんが交流に来ます

12月20日(日)13:00 中土手倉庫整理

忘年会(予定)

# 9月20日「鳴く虫を探そう」に40名超参加

9月20日、恒例の「鳴く虫を探そう」を行いました。えどがわエコセンターの自然教室として、区報に案内を出したこともあって、初めての参加者が親子で26名、全体で40名を超えて、久しぶりににぎやかな会となりました。

午前中は虫探し。それぞれ思い思いに虫を捕まえ、全員集まって虫の確認を行いました。

秋の鳴く虫はエンマコオロギとオカメコオロギ、ツツレサセコオロギ、カンタンが見つかりました。ツユムシ、セスジツユムシ、ササキリ（ホシササキリ？）も鳴く虫の仲間ですが、鳴き声は確認できませんでした。

カマキリは、チョウセンカマキリ、オオカマキリ、バッタ類ではトノサマバッタ、クビキリギス、コバネイナゴ、ツチイナゴ、クルマバッタモドキ（全身が褐色系でトノサマバッタと同じ大きさ形のバッタ）

バッタ以外では、クサカゲロウ、ナナホシテントウムシ、コガネグモなども見つかりました。

ツツレサセコオロギは、屋敷の周りでよく鳴いており、この声を聞いたら冬物の繕い物をしようということでその名がついたと言われ、「綴刺せ」という意味。



ツツレサセコオロギ



エンマコオロギ



トノサマバッタ



カンタン



ホシササキリ



ショウリョウバッタ



クルマバッタモドキ

